HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	昭和四十七年度行事報告
Citation	基督教学, 8, 38-39
Issue Date	1973-07-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46289
Type	other
File Information	8_38-39.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

求の問題として扱かわれる。そこではじめて、著者のいわゆる「宗教哲学」が完成するのではなかろうか。

本書は、一二〇頁という短かいものではあっても、現代における宗教哲学の方向を示すものとして貴重なものであらう。スコラ神学、哲学という分野での労作として、先験的方法や存在論についての知識を前提にしながら一読にあたいするものである。ちなみに、著者には、カトリック神学、第二十二号に、ペレス師が書評を寄せられた

Die Transzendenz der Freiheit zum Guten. Der Wille in der Anthropologie und Metaphysik des Thomas von Aquin. München, Berchmanskolleg Verlag, 1971, 411 pp.

があることを附記しておく。

（近野　亘）

昭和四十七年度行事報告

○第十一回大会　七月十日　於・北海海大学

理事会

総会

昭和四十七年度行事、会計、会計監査報告を承認

決議事項

一、新役員として次の各氏を選出。

〔会　長〕秋田　稔

〔会計監査〕海老沢義道

〔理　事〕浅井正三、石沢三郎、伊藤貫一、宇野光雄、大出　哲、加藤邦雄、佐藤日吉、三原武夫、山崎保興

〔幹　事〕雨貝行麿、植木幹雄、近野　亘、白井暢明、滝沢武人、土屋　博

二、公開講演会は来日予定のH・コックス氏を講師として招くことの可能性を打診する。

三、次期大会は七月十六日(月)、酪農学園大学において行なう予定とする。

四、「基督教学」第八号の編集委員として次の各氏を選出。浅井正三、荒川関巧、宇野光雄、大山綱夫、加藤邦雄、近野亘、白井暢明、菅沼英二、滝沢武人、土屋博、山崎保興

五、前本学会会長・中川秀恭氏の本学会の創設並びにその後の御貢献に対し、「名誉会長」の称号を贈ることが決定された。

研究発表会

一、イエス伝承と黙示文学　北海道大　土屋　博

二、使徒教父における aletheia について　日本キリスト教団野幌教会　加藤邦雄

三、信仰の一致点を求めて ―使徒信条・その史的考察―　藤学園　牧野玲子

四、ヒューム『対話』の解釈について　北海道大　植木幹雄

五、M・ウェーバーにおける〝カリスマ〟の概念　北海道大　白井暢明

○北海道キリスト教学会談話会　十月三十日　於・北海道大学

東京大学教授・前田護郎氏の発題（テーマ『キリスト教学と諸学をめぐって』）の後、同氏を囲んで歓談の時がもたれた。

○公開講演会

都合により中止となる。

執筆者紹介

牧野玲子　藤学園

加藤邦雄　日本キリスト教団野幌教会

植木幹雄　北海道大学助手

近野亘　藤女子大学教授

昭和四十八年七月一日　印刷
昭和四十八年七月十日　発行

基督教学　第八号　会員頒布

編集代表者　秋田稔

発行者　日本基督教学会北海道支部
北海道基督教学会
札幌市北区北九条西七丁目
北海道大学文学部宗教学研究室内
（電話・札幌七一一―二一一内線四〇五六）
（振替・小樽一三五九）

印刷所　文栄堂印刷所
札幌市中央区北三条東七丁目